

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2020

『海外へGO!?!』

【セッション中の投票アンケート結果】

練習設問：皆さんの属性について教えてください。

1. 学部学生	16	6.8%
2. 大学院生（修士）	25	10.5%
3. 大学院生（博士）	49	20.7%
4. ポスドク、助教、講師、准教授、研究員等の非PI職	72	30.4%
5. 独立助教・講師・准教授、主任研究員等のjunior PI職（非テニュア・テニュアトラック）	25	10.5%
6. 教授等のPI職（テニュア）	38	16.0%
7. 企業	12	5.1%
計	237	100.0%

設問1：ずばり、海外留学は？

1. する予定、したことがある	111	49.8%
2. 興味はあるが迷っている、わからない	72	32.3%
3. 興味はあるがしない予定、しなかった	37	16.6%
4. 興味がない、しなかった	2	0.9%
5. その他	1	0.4%
計	223	100.0%

設問2：研究者にとって海外留学のメリットは？

1. 研究業績の蓄積	29	14.4%
2. キャリアパスの構築	74	36.6%
3. 語学力の向上	21	10.4%
4. 海外生活での経験	60	29.7%
5. その他のメリット	15	7.4%
6. メリットよりもデメリットの方が大きい	3	1.5%
計	202	100.0%

設問3：海外留学のハードルは？

（複数回答可/回答者数213名における回答数と割合）

1. お金	105	49.3%
2. 語学力	86	40.4%
3. 情報不足	50	23.5%
4. 帰国後の就職	86	40.4%
5. 渡航先への不安（治安や食事など）	61	28.6%
6. 家族のこと（子育てや介護など）	90	42.3%
7. その他	8	3.8%

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2020

『海外へGO!?!』

【セッション中の参加者コメント】

- ・留学で一番困ったことは、何でしょうか？
- ・貴重なお話ありがとうございます。勝ち残れる人とキックアウトされてしまう人の違いは何でしょうか？
(→塩崎先生より) ポスドクに行った先のボスに認められる存在になることが大事だと思いました。Hard workはもちろん、協調性のあるlab citizen として、他のlab memberのお手伝いも厭わない。ポスドク先のボスから重用され、愛される存在になれるようなら、次の道も自然と拓けるのだと思います。
(→塩崎先生へ) 結局、その辺りは日本も外国も変わりありませんね。私も同感です。
- ・さきほど塩崎先生が日本語が大事とのことをおっしゃられて興味深かったのですが、留学時は日本語は不要のように思いますが、どのような意図だったのでしょうか。また日本語は話さない方がよい、日本人がいないラボに行くことが必要でしょうか。
→ (塩崎先生より) 私が早口でわかりにくかったですよ。外国語、例えば英語を習得しようとしたとき、自分の母国語である日本語以上には上達しません、ということを書いたかったです。
- ・事前にボスとの相性を確認しておくべきでしょうか。その場合どのようにマッチングを行いましたか？
- ・(セッション中のアンケート設問1で「その他」を選んだ方より) 留学して、そのまま残ってます。
- ・興味の無い方はそもそも参加してないと思います
- ・大学院生の頃は、海外に行くと自然に論文が出ると思ったが、そうではなかった。そのような現実を知ることができる。
- ・学部卒業後からの留学を検討された方はいらっしゃるでしょうか？その場合の研究室選びや分野選びについて伺いたいです。
→ (質問者の方より) 齊藤先生、胡桃坂先生、ありがとうございます！
- ・研究に対する多様なアプローチの仕方、考え方があることを知ることができる。また、私にとっては、人間の多様性を知ることができたことがもっとも重要であった。
- ・Ph.D取得を目指して、5年前にアメリカ・EU大学院を受験しました。インタビューで落選し、結局企業の研究開発の就職を選びました。現在仕事と家族を抱えながら、もう一度海外へ挑戦するには、国内Ph.D取得→ポスドク留学がベストでしょうか？アドバイス宜しくお願いします。
(→塩崎先生より) 博士号は、どの国でとっても通用する研究者の運転免許証みたいなものです。国内で博士号を取る方が手近でやりやすいとお感じのようでしたら、それで全く問題ないと思います。
- ・日本にいる時に比べて、研究でも研究以外でも自分の考えを持つことの重要性を学び、自分の「個の自立」が促進されたと思う。なぜか、日本にいるとなかなか精神面の自立が促されない気がします。
- ・語学向上や情報収集は個人の努力次第のところもありますが、お金を持つのは限界があると思います。サポートがもっとあれば良いと思いますが、ただ、塩見様のアプライが少ないとお話もあるのでしたら、お金もある程度努力次第なのではないでしょうか。。
- ・コメントです。長い人生で異文化の中で数年間生活することは人生を豊かにすると思います。研究者は海外での生活できる(できれば家族と一緒に) 職種ですので、可能であれば、海外で研究されることを勧めます。海外に行って無事に帰国できれば(帰国しなくても構いません)、50点です。あと研究で少し学ぶことができれば10点プラスで、合計60点で合格です。
- ・企業に行きたがる博士院生がかなり多くなっていますが、企業の考え方はどうでしょうか。若いPhD学生か30代の留学経験者か？
- ・海外にGOしたかったのにボスに許可してもらえずドメスティカになってしまった理事長の阿形です。自然科学研究機構の教員研究評議会があり参加が遅れました。昨年の本学会の総会で近藤寿人会員から、若手の留学をプロモーションするために、教員の公募文に男女共同参画と同様に海外留学した方をダイバシティの観点から優先します、みたいな文を載せることを提案されました。
- ・留学先で出会った一番個性的な人の一人が胡桃坂さんでした。
- ・アメリカの地方はいいよ。ポスドクの初任給は年間52000ドルです。
- ・僕らサッカー野郎には、海外に行くことがキャリアアップなので、最近久保くんみたいに子供の時から留学して語学もペロペロになるのがトレンドですね。高校生でもサッカー部員がスペイン語やドイツ語してリーガエスパニョーラやブルデスリーグを目指しているのに、日本の研究野郎でそういう話は聞かないね、